

平成 24 年 5 月 30 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 24 年 5 月 30 日 (水曜日)

午後 3 時 15 分から午後 4 時 30 分まで

2 場 所 シティホールプラザアオーレ長岡 市民交流ホールD

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委員 羽賀 友信 委員 中村 美和

委員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 佐藤 伸吉 子育て支援部長 矢沢 康子

教育総務課長 若月 和浩 教育施設課長 安部 和則

学務課長 近藤 知彦 学校教育課長 田中 仁

子ども家庭課長 佐藤 正高 保育課長 栗林 洋子

中央公民館長 武樋 正隆 中央図書館長 品田 満

科学博物館長 山屋 茂人 学校教育課主幹兼管理指導主事 関谷 祐二

学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修 学校教育課主幹兼管理指導主事 大矢 慎一

スポーツ振興課長 木元 実

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 水内 智慧 教育総務課庶務係 小川 瑞穂

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 37 号	条例改正の申出について (長岡市立学校使用条例の一部改正)
3	第 38 号	条例改正の申出について (長岡市子育ての駅条例の一部改正)
4	第 39 号	専決処理について(補正予算の要求について)
5	第 40 号	補正予算の要求について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 5 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び加藤委員を指名する。

日程第 2 議案第 37 号 条例改正の申出について(長岡市立学校使用条例の一部改正)

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 37 号 条例改正の申出について(長岡市立学校使用条例の一部改正)を議題とする。事務局の説明を求める。

(安部教育施設課長) 長岡市立学校使用条例の一部改正について説明する。日越小学校の新たなグラウンド整備事業が平成 23 年度で完了した。日越小学校は平成 22 年度に校舎の増改築を行い、完了している。その際、グラウンドの一部を増築に当て、グラウンドが手狭になったため、新たに 23 年度に用地を購入し、グラウンドの整備を行った。従来の面積よりも大きなグラウンドになったことから、グラウンド使用料を現行の 800 円から 1,200 円に改正するものである。施行期日は 10 月 1 日とする。これは、グラウンドを学校開放で使用しており、年度を前期、後期に分けているため、現在申し込みをしている人や使用している人に不利益とならないよう、後期の 10 月

1日から適用するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第38号 条例改正の申出について(長岡市子育ての駅条例の一部改正)

(大橋委員長) 日程第3 議案第38号 条例改正の申出について(長岡市子育ての駅条例の一部改正)を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 子育ての駅条例に「とちお」を加えるものである。子育ての駅は現在3つあり、そこに「子育ての駅とちお」を加える。概要を説明する。位置は栃尾宮沢1765番地、施設は交流広場である。概要を説明する。オープンは7月7日土曜日、10時30分からである。正式な名称は「子育ての駅とちお」だが、愛称を募集し、「すくすく」が選ばれた。これは選定委員によって選ばれたものである。栃尾産業交流センター「おりなす」の2階の一部をお借りし開設する。隣が道の駅で、わかりやすい場所で、行きやすいところに設置する。委託先はNPO法人子育て広場ふっくらである。子育ての駅運営委員、サポーター制度に加えてNPO法人の力を借りて、市民協働で子育ての駅の運営を行う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第4 議案第39号 専決処理について(補正予算の要求について)

(大橋委員長) 日程第4 議案第39号 専決処理について(補正予算の要求について)を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 各課の説明に入る前に総括的に説明する。この4月3日から5日に台風並みの強風により、各施設が被害を受けた。この被害の復旧にあたり、本来であれば6月市議会に諮るべきだが、それでは間に合わないため、5月の段階で市全体で補正予算を組んだ。教育委員会からも各課で要求をしたものである。協議報告事項に被害の写真を載せてあり、それとあわせて各課から説明する。

(安部教育施設課長) 歳出補正額は416万3千円である。主なものとして黒条小学校プール付属屋の屋根の修繕、千手小学校の物置屋根の修繕、信条小学校の樹木及び物置の撤去と新たな物置の設置工事、堤岡中学校の倒木を伐採した手数料を計上してある。被害状況を写真で確認すると、黒条小学校はプール付属屋の屋根がめくれたため、これを修繕した。千手小学校は物置の屋根がとれた。信条小学校は樹木が倒れ、大きな木が倒れてプレハブをつぶした。現在は、同じような物置を設置している。堤岡中学校では、大きな木3本が倒れ、伐採した。また民家に近い木が倒れたり、枝が折れたりしているため、伐採を行った。このほかに、小・中学校あわせて24の施設で建物、樹木に被害があった。大きなものは小学校3校、中学校1校である。

(武樋中央公民館長) 歳出補正額は20万9千円である。被害の状況は、地区公民館の分館、5箇所分である。そのほかに小国の地区公民館の分館2箇所ガラスの破損等の被害があった。これについては既決予算で対応した。大半がガラスの破損で、ほぼ修繕も完了している。

(山屋科学博物館長) 歳出補正額は187万9千円である。寺泊水族博物館の被害状況はアルミの扉が壊れ、高潮により潮水が入り、電源切替開閉器が壊れたことが一番大きな被害である。和島収蔵庫の被害は、強風によりサッシがはずれて、収蔵庫の中に風が入り込み、プレハブ自体が土台からずれたものである。これについては、ひとまずサッシをはめ込み、応急的に対応した。次に、寺泊にある竹森収蔵庫であるが、もともと雨漏りのために屋根の上に屋根をつけていた。それが吹き飛ばされ、危険なため解体するものである。最後に越路郷土資料館であるが、立ち木の枝が割けるように折れたため、その処分を行う費用である。

(佐藤子ども家庭課長) 寺泊にある寺泊青少年研修センターの被害である。青少年

文化センターのプール等の屋根の一部が落下する被害があったが、これは既決予算で対応済である。今回は青少年研修センターの被害については補正予算を要求し、これから対応したい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 青少年文化センターのプール棟の屋根の破損についてだが、プールは取り壊すのではなかったか。

(佐藤子ども家庭課長) 今はまだある。使用停止している。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり承認することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり承認した。

日程第5 議案第40号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第5 議案第40号 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(品田中央図書館長) 栃尾美術館の、収蔵品を良好に保存するための収蔵庫の空調の総入替えに関する費用である。これは、経年劣化により故障があり、暖房設備が壊れた。冬だったため、応急処置的に対応していた。この収蔵庫は、市が所有している美術品のための収蔵庫で、栃尾美術館が唯一のものであるため、今回補正予算を要求するものである。三輪氏や大矢紀氏などの一流の美術品、書を所蔵しており、早急に対応したいものである。

(山屋科学博物館長) 歳出は緊急雇用創出事業で、これは県の緊急雇用対策事業であるが、当初予算の段階では、県の予算が見込めず、計上できなかったものであるが、県の予算の目途がついたため要求するものである。内容は、市内の出土品の整備、文化財の整理活用事業の人件費である。次は、文教施設災害復旧費の社会教育施設災害復旧費であるが、専決でも承認いただいた被害であるが、応急処置ではなく修繕についての補正である。竹森収蔵庫の二重になっている屋根の工事費であるが、上の屋根

はなくなり解体するが、新たに屋根をつけるものである。和島収蔵庫設置工事費は先ほども説明したとおり土台からずれているため、市内に児童館として使っていたプレハブがあるので移築し、収蔵庫として使用したいものである。歳入は県の緊急雇用については100%補助金があり、また社会教育施設の復旧については、市債を活用するものである。

(栗林保育課長) まず歳出について説明する。子育て応援プランでも検討することとなっている病児保育について、平成24年11月からながおか医療生活協同組合に委託し実施するため、必要な経費を計上するものである。病後児保育とは、回復期にはあるがまだ登園できないお子さんをお預かりする、又はまだ熱は出ているが急変しない見込みのお子さんをお預かりするものである。病後児保育については、ながおか医療生協のほか3園、計4園で実施している。今回は、病児保育で、まだ回復期でないお子さんをお預かりする、長岡では初の施設である。ながおか医療生協では前田診療所から病後児保育をしていただいているが、沢田1丁目に小児科の診療所を新たに設置し、そこに病児保育を併設するものである。診療所の1階の一部で11月から病児保育を行うものである。経費は設備に係るものと、委託に係る経費である。歳入については、病児・病後児保育整備で県から交付される補助金と、施設を利用する保護者の利用者負担金である。

(若月教育総務課長) この議案第40号の補正予算については、6月12日から開催される市議会6月定例会に要求するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 病後児保育については開始からかなり経つと思うが、どのくらいの利用頻度でどの地域の利用が多いか教えてほしい。

(栗林保育課長) 月ごとではなく延べ人数であるが、平成23年度では270人ほどの利用で、地域については把握をしていない。4箇所合わせると800人ほどの利用がある。川東に2箇所、川西に1箇所、栃尾に1箇所あり、家の近く、もしくは職場の近くの施設を利用されていると思われる。

(青柳委員) PRはどのようにしているのか。

(栗林保育課長) 子育てガイドに載せている。個別では特に行っていない。

(大橋委員長) 栃尾美術館の空調機入替えについて、経年劣化とのことだが、2、

3年前にも要求がなかったか。

(品田中央図書館長) 直接のきっかけは、今年の冬に故障したことである。空調がないと絵画であればフレームのそりが起きてしまう。一定の温度の中で保存しておく必要がある。あくまで収蔵庫の故障により要求するものである。美術館の中に二重構造で収蔵庫を所有しており、その収蔵庫に限り空調機の入替えを行う。

(大橋委員長) 作品管理の部屋のための空調ということで了解した。

(加藤教育長) 以前に中央図書館の本館の空調機については、一部不具合があったため、対応している。今回は栃尾美術館の収蔵庫である。

(品田中央図書館長) 中央図書館本館は当初予算で対応する予定である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項について、平成24年度学校・子どもかがやき塾 夢企画事業について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 平成24年度学校・子どもかがやき塾 夢企画事業の内容を報告する。この事業は子どもたちに自信や夢を持たせ、やる気や学ぶ意欲を引き出すために、学校が創意工夫し、特色のある教育活動を財政支援するものである。学校の学級数により支援を行うが、夢企画は意欲的な提案、授業に対しプラスアルファで上限30万円までを学校に配当するものである。小学校は13校の応募があり、13校決定した。中学校は10校応募があったが、残念ながら4校は採用されなかった。主な内容は、表町小学校は『まちなか活性プロジェクト～まちづくりを私たちの手で～』として、表町地域の、人が集まらなくなってきた中心市街地を自分たちの手で活性化させようと、NPO法人まちなか考房や長岡市商店街振興組合連合会の話の聞いたり、商店街を歩いたりして調査活動を展開する。その中で、身近な地域の現状を知るとと

もに、人々の思いや情熱に触れるものである。具体的な活動としては、商店街のイメージソングやキャラクターを作ったり、スタンプラリーやイベントを計画するものである。川崎小学校『「米百俵の群像」から米百俵の精神を引き継ごう』というものであるが、これは米百俵の群像の製作に関わった内山さんが川崎地域に住んでおり、内山さんをゲストティーチャーに迎え、群像がなぜ作られたのか、群像に込められた願い、思いは何なのか、群像の思いを自分の生き方にどう生かすのかということ学ぶ。また史跡の見学を行い、先人の生き方を自分の生き方に生かすものである。中学校では堤岡中学校は『自己の限界を超えろ、めざせ！支え合ってやり遂げるチャレンジウォーク完歩』である。中身はチャレンジウォークであるが、40 km、27 kmの2コースに別れ、自分で選択したコースを完歩するものである。子どもたちはチェックポイントで励ましてくれる保護者や地域の住民から元気をもらい、自己の限界を超える取組である。一方、採用されなかった4校は、いずれも通常の学校が取組んでいるキャリア教育等の枠を出なかつたり、3回を限度としているため採用しなかつたものである。なお、かがやき塾では校長裁量予算枠を設けいずれも36万円から39万円を配当している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 選考委員は事務局か、それとも夢づくり推進会議の委員か。

(田中学校教育課長) 事務局で行っている。

(大橋委員長) 36万円から39万円の範囲において校長裁量予算がそれぞれの学校に配当されており、その他に財政支援することでよいか。

(田中学校教育課長) そうである。

(大橋委員長) 特色のある学校づくりに継続的に取組んでいる学校もあると思う。この夢企画事業の成果を発表する機会はあるのか。

(田中学校教育課長) 活動報告はまとめていたが、今までは、皆さんに報告する場はなかつた。広く報告する方法を検討する。

(加藤教育長) 中学校で4校採用されなかつた。その理由が何年も続けているためとのことだが、これを当てはめると今後少なくなっていくことも考えられる。地域・子ども元気塾でも地域からなかなか企画が上がらない。通常の学校がやっている範囲との理由があつたが、この学校にしてみるとこの機会にやろうと手を挙げてきたと思

う。その意志をきちんと汲んでいるのか。中学校を4つ落としたことは「やっぱりためだった」と思わせることにならないか心配である。選考は事務局だけとなると、考える部分はある。初めて手を挙げた学校の意欲もあると思う。そういう学校は意を決して手を挙げているはずである。そういうところをぜひ汲んでほしい。

(羽賀委員) 総額いくらだから何校という決まりがあるのか。市民活動団体の助成については、決定はオープンで行っているが、「勇気を与える」ということもあるので、我々が指導し額を減らして交付しているところもある。額を減らしてでも続けるようにしたらいかがか。

(佐藤教育部長) 市民活動についてはプレゼンを行いオープンに審査、評価しているとのことだったが、夢企画では評価を事務局で行っている理由は、広く応募しているわけではなく、学校という範囲と、教育的な観点があるため、第三者を入れずに管理指導主事、指導主事が見て判断している。そういった目を見たときに、学校で工夫した形跡がなかった。今、ご意見をいただいたとおり、学校側にしてみれば、やる気になって出したというところもあるかもしれないので、再度検討してみたい。やる気になっている学校に何も手を差し伸べないのはいかなものかと思うので、意見を参考に再度検討したい。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成24年度長岡市成人式について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 5箇所です。5月3日に開催された成人式の一覧である。長岡地域は、アオーレ長岡が会場で、意見として保護者席を設けたことから、保護者から「式典の様子がわかってよかった。感動した。」との意見をたくさん頂戴した。越路、小国、栃尾、川口地域については、記載のとおりである。合計出席者は2,297人で昨年度は2,018人であったため、約190人多い参加となった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) それぞれの会場の様子について、委員のみなさんからお聞かせいただきたい。

(青柳委員) 成人式は保護者がたくさん席にいた。保護者の方が本当に良かったと言っていた。特に内容を見ることで、家に帰ってから式典のことについて会話ができたとのことであった。また、私は知らなかったが、毎年ビデオレターで出身校の先生

方の言葉があるとのことで、非常に工夫がされていると感じた。

（羽賀委員） 川口地域は、人数は少なかったが出席率は非常に高かった。会場が良かった。出席者が地域に誇りを持っていた。成人式本来の姿だと思った。

（中村委員） 午後から小国地域に行った。厳粛な感じで式典が執り行われた。先生が出席されていて写真撮影をする場面があったが、先生が仕切る形でうまくいった。午前中の長岡地域について、参加した保護者からの厳しい意見が耳に入った。メッセージ、ビデオレターは良かったが園児等の演奏が、前半に加え、後半にもあって長すぎるといった意見があった。「ひなた」のサプライズでのライブは、案内には記載がなかったため、保護者が送迎をする際に子どもたちと連絡が取れず、行き違いがあったとのことだった。聞いているお客さんもあまりいなく、サプライズが必要だったのかという意見もあった。そのほかに受付がわかりにくく、ながおか学をもらえなかった人もいたと聞いた。成人式の一覧表をいただいたが、出席率はどのように出しているのか。

（佐藤子ども家庭課長） 入り込み状況を確認している。ハガキとは別である。

（中村委員） 入り口がオープンになっていただけに、出入りが激しく、落ち着いていなかった。うるさかった。フラットな会場になったが、前のほうの席が空いているのに座らないなど誘導ができていないように見えた。誘導をしっかりしてほしいとの意見があった。入り口も正面にし、脇から入るなど、わかりやすくなるよう来年検討してほしいと率直な意見をいただいた。

（大橋委員長） オープニングは見事であった。後半の園児の演奏は数もあるし長すぎた。私自身も感じたし、他の人からも聞いた。ながおか学については、孫が成人を迎えたので見せてもらおうとの声も聞いた。出席者、来賓者みなさんが、各地域で成人式を開催していることを知らないようであった。

（加藤教育長） 越路地域は、非常にシンプルであった。旧担任とのトークは式典終了後に行われていた。栃尾地域は、写真撮影に時間がかかった。中学校ごとに細かい指示を出しているようだ。

（矢沢子育て支援部長） 長岡地域の成人式はアオーレで始めて開催し、私どもも工夫した。ナカドマではこいのぼりフェスティバルが行われており、市民のイベントと連携してできることはないかと模索しながら行った。扉をオープンにしていたのは、

市民みんなが成人を祝う雰囲気作りをしていくためであった。私たちも今回のアオーレ開催の成人式については、いろいろ意見を頂戴している。今後も成人をみんなで祝う雰囲気を作り上げるために工夫していきたい。

(加藤教育長) ひなたのサプライズは2日前に決まったとのことであった。当日の流れについて、うまく整理できなかった。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成24年度 子どもの虐待防止啓発事業「乳幼児の保護者向け幼稚園、保育園出前講座」の実施について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 乳幼児の保護者向けの虐待防止啓発事業の新規事業である。内容は、保育園の保護者は仕事をしており、日中は園に子どもを預けているため、この講座のために集まってもらうというわけではなく、園が開催する保護者会、研修会等とタイアップして、こちらから出向いて行き、大勢の保護者から聞いていただくというものである。事業の内容は、NPO法人「子どもの虐待防止ネット・にいがた」の力を借り、子ども家庭センター職員が出向き一緒になって講座を行っている。CSP方式、いわゆる怒鳴らない子育てを実践するための実技を交えた研修を行う。今年度は20園で実施する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成23年度第2回長岡市スポーツ振興審議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(木元スポーツ振興課長) 第2回スポーツ振興審議会の報告を行う。開催日時、会場、出席者については記載のとおりである。会議の内容は、平成23年度の実績報告と平成24年度の事業計画について、報告、説明を行った。スポーツ振興審議会の名称変更については、国のスポーツ基本法の改正により、スポーツ振興審議会がスポーツ推進審議会に名称変更した旨を説明した。長岡市体育協会の公益法人化については、昨年9月に公益法人化に向けて、県に申請をしていた。今年3月22日に承認され、公益財団法人長岡市スポーツ協会に改名したことを説明した。事例発表については、これまで長岡市ではコーディネーショントレーニングについて、実技、考え方について積極的に推進しているが、その取組の現状、課題について、体育協会の室賀主任か

ら発表していただいた。その発表を踏まえ、委員から意見交換をしていただいた。その後アオーレ長岡に移動し、アリーナを中心に見学した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。

(佐藤子ども家庭課長) 青少年健全育成のつどいについてチラシを配付した。「夢をあきらめない」というテーマで西山茉希さんの講演会を行う。7月12日に市立劇場で行う。申込については、6月の市政だよりにも掲載する。

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に新組小学校、浦瀬小学校、北越戊辰戦争伝承館を訪問した。また、2グループに分かれて学校訪問を行うという新たな取組を行った。教育委員の皆さんから意見、感想をいただきたい。

(青柳委員) 浦瀬小学校に行った印象は、落ち着きのある学校と感じた。規模的なものかもしれないが大きな家族のような印象であった。うれしかったのは、給食を全校で食べたとき、「楽しく会話をしながら食べましょう」という指導もあったので、周りの子どもたちと話をしていたら、隣の男の子が「今は先生の説明を聞く時間だよ」と一声かけてくれたことである。広くはないが、部屋の真ん中でまず先生が本日のメニューを説明し、食事が始まり、その後また児童が係の報告を始めた。その時に先生も児童も「静かにして」といわなくてもぱっと静かになっていた。心を大切にする学校のように、先生がふわふわ言葉、温かい言葉をよくかけているようであった。人の言葉を聞くときも、相槌を打ったり、目を見て聞いたりしていた。先生の気持ちが児童にも反映されていた。とても気持ちのいい学校であった。

(羽賀委員) 私も浦瀬小学校に行ったが、印象に残ったのが、6年生の自閉症のお子さんである。その子は特別支援教育を受けていたが、給食のときに隣になった。ご飯の間じゅう私に質問し、私の質問にもきちんと答えてくれていた。こういう指導をきちんとすれば子どもはきちんと伸びて、人の意見も聞いて自分の意見も言えるようになる。教育の成果を見せてもらった。子どもが前に出たときに、私も「話しちゃだめだよ」と言われた。こういう教育を大事にしないといけないと思った。

クラブ活動が4つあり、地元の方が指導員として入っていた。地元をお願いするだけでなく、先生とのキャッチボールがうまくいって、思いが共有されていることがわかった。給食はすべて地元の野菜を使っているとのことで、野菜嫌いが少ないということであった。

(中村委員) 新組小学校の授業参観では全学年が算数を行っていた。電子黒板を使っていたのが3、4年生で、ICTを使って学習をしていた。私は教室が暗く、見えづらいと思ったが、きちんと「先生、見えない」とはっきり言う子どもがいた。電子黒板を使用している組では角度の勉強をしていたが、楽しい授業になっていた。教科書をそのままTVに映して、気が散らないのが気になったが、全体的には落ち着いていた。自分の意見を低学年であってもはっきり考えを持って発表しており、いい環境だと感じた。子どもたちと一緒にランチルームで給食を食べたが、40分までは話してはいけないということで、静かにしていた。時間が過ぎてからは、いろいろなことを聞いてきてくれた。コミュニケーションが上手に取れていた。校長先生の話では、新組の地域力がすごく、登下校のパトロールの協力なども支援してくれているとのことであった。三世帯同居の家庭が多いことが、コミュニケーションが上手にできる子どもが多い秘訣なのかもしれないと思った。学校で作成している学校生活等のパンフレットを、PTA総会で説明し配布し、学級懇談でも説明し、先生、保護者全員で共有し、理解することで、保護者と学校でこれを指標にしている取組がよかった。パンフレットの表題もきまりなどではなく、「新組っ子のすずむ道」となっていることもよかった。伝承館は、一般の方も来ていて、館長が説明していた。非常に勉強になった。

(大橋委員長) ICTを進めているということで、教育センター指導主事と一緒に取り組んでいる。授業については、子どもたちは食いついている。うまくいっていると感じたし、落ち着いていた。全校119名で、どのクラスもほぼ20名学級ということも落ち着いている要因と思われる。先生方も、いろいろな場面に合わせた音声、話し方で授業に臨んでいることで感心した。ICTで課題なのは、どの授業、どの場面で使うかだと思う。図形の授業ではいいと思う。気になったのは、先生が自分の手元ばかりに目がいって、子どもの目線、表情を見ることが遅くなる。そのあたりの技量、技術が難しいと思う。逆に、これができるようになるとすごくよく

なると思う。新組っ子のすすむ道は、どの学校にも生活の決まりというものはあるが、新組は子どもの生き方、こんな風でありたいという願いを、保護者、地域委員、後援会の方にも関わってもらい、相談しながら作り上げていることに感心した。伝承館については、地域力が非常に強く、学校がうまく使うと特色ある学校の展開につながると思う。

(加藤教育長) 浦瀬小学校に行ったが、先生が力量を十分に発揮し、安定感のある授業であった。うれしかったし、心強かった。給食を一緒に食べたが、気になったのは食べるのが早い子、遅い子いる中で、なぜ一緒にごちそうさまをする必要があるのかということである。私が一緒に食べた6年生でさえ、終わりの時間でまだ残っている子がいるので、低学年はもっと大変だろうと思った。もっとゆっくり食べさせてあげたいと感じた。「いただきます」は一緒でも「ごちそうさま」は考えみてもいいのかと思った。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員